様式１

観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和８年１月６日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ・地域連携ＤＭＯ・地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）美しい伊豆創造センター	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 静岡県沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、　賀茂郡東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、田方郡函南町 （７市６町）	
所在地	〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺 838-1	
設立時期	平成 29 年 2 月 13 日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	22 人【常勤 21 人（正職員５人・県市町派遣 13 人・民間出向３人）】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 菊 地　豊 （出身組織名） 伊豆市	伊豆市長として美しい伊豆創造センターの指針となる「伊豆半島グランドデザイン」策定に尽力。センター設立時には副会長として中心的役割を果たしている。伊豆半島ジオパーク世界認定時には会長として各方面に尽力した。
組織責任者（専門人材）（ＣＥＯ：チーフ・エグゼクティブ・オフィサー）	（氏名） 植松　和男「専従」 （出身組織名） 三島市	当ＤＭＯの専務理事。三島市役所にて国際交流関係業務等に従事し、平成 31 年４月より現職。本年度からプロパーとなった。 本組織の中核であり、官民連携で広域的な観光振興・インバウンド対応事業を推進している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 林田　充「専従」 （出身組織名） （株）ＪＴＢ	令和３年４月着任。旅行会社に３８年間勤務、特に６年間の沼津・静岡勤務時に構築した地域人脈と地域資源理解に加え、直近５年強にわたる台湾駐在時の日台交流拡大事業経験を活かしたマーケティングマネジメントを実践していく。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 槇原　宏「専従」 （出身組織名） 静岡県	静岡県に 28 年間勤務、令和７年４月より事務局長として予算策定・執行管理を行うとともに、持続可能な運営のため運営収支や財源確保を実践している。

様式１

<table>
<tr><td>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</td><td>静岡県総務地域振興課・東部地域局・賀茂地域局（地域経営）、静岡県スポーツ・文化観光部観光振興課・観光政策課（プロモーション・インバウンド）、静岡県経済産業部産業革新局（マーケティング・地産地消・地産外消）、静岡県交通基盤部道路局・都市局（社会資本整備・地域公共交通）、ＭＭ対象地域７市６町（全般）、</td></tr>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td>各市町観光協会、（公益）静岡県観光協会、旅行会社（プロモーション・着地型旅行商品）、各市町商工会議所・商工会（地域物産開発・ブランド認証）、ＪＲ東日本横浜支社、・ＪＲ東海静岡支社（交通アクセス改善）、伊豆急行・伊豆箱根鉄道・東海自動車グループ・伊豆箱根バス・富士急行・富士急マリンリゾート・ふじさん駿河湾フェリー（交通アクセス・二次交通改善）</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td>【該当する登録要件】②
構成団体が参画する各種会議体によって合意形成を図っている。
・一般社団法人の理事会は伊豆半島７市６町の首長と伊豆半島の交通事業者、一部の商工会議所、商工会、観光協会、静岡県の旅館組合等の代表者、ジオパーク関係の有識者にて構成
・理事会の他、行政中心の企画運営委員会、観光事業者中心の観光・地域振興委員会、ジオパーク関係者中心のジオパーク委員会やワーキンググループを設置。観光・地域振興委員会の中に実務担当者会議を設け、商工団体や広範囲な観光事業者にて事業推進進捗状況などを定期的に情報共有している。
・ＤＭＯ進捗管理・効果測定等を担う組織として法人理事会を位置づけ、伊豆半島内の各市町ＤＭＯ（地域ＤＭＯ）及び静岡県の全県ＤＭＯに参画している。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td>ＪＲの静岡ＤＣを契機とし、ＤＣ取り組みを紹介するワークショップ開催や各市町広報誌への情報掲載、ＳＮＳ投稿キャンペーンなどを実施し、地域住民への活動紹介や観光地域づくりへの参画促進を図った。今期も令和５年度から始めた住民満足度調査を計画している。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
【令和６年度事業　主な事業項目】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>伊豆半島観光戦略推進（ＤＭＯ）事業</td><td>ジオリゾート伊豆ブランディング事業
ア　ブランドスローガン推進事業
経営理念及びﾌﾞﾗﾝﾄﾞｽﾛｰｶﾞﾝの地域事業者等への周知と会員獲得。正会員３者増。
イ　観光防災事業
防災意識の醸成を図るため講演会を２回開催。
〇「伊豆半島沖地震から 50 年」南伊豆町湯けむりﾎｰﾙ
参加者 150 名　地域住民、行政関係者　ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ中継実施
〇「東日本大震災の記録　―後世に残し伝えるために―」韮山時代劇場大ﾎｰﾙ　参加者 270 名　地域住民、行政関係者、東電、ｶﾞｽ供給事業者、建設業協会
ウ　ＤＭＯ連携等推進事業
①DMO 更新手続き
8/28 登録完了通知受領
②人材育成事業
２大学と１行政主催講座において延べ４回の講義を行った。金沢大学「伊豆半島のｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ戦略」、日本大学国際関係学部「伊豆観光文化論」、伊東市自然歴史案内人講座「ﾕﾈｽｺ世界ｼﾞｵﾊﾟｰｸとは」
・観光に関する住民満足度調査事業</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

		構成７市６町の住民に観光客の受入等についてｱﾝｹｰﾄを実施。回答数 3786 件。 ・観光事業者採用支援事業 人材確保のため新卒者を対象に合同会社説明会を東京で実施。出展事業者８社。46 名。施設見学参加者 12 名 ・ｼﾞｵ教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ推進事業 高校生向け教育旅行で使用する教材「伊豆×探求」を活用した教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを推進。WS２回。旅行会社訪問東京３社、大阪６社。 ・伊豆半島満足度調査 伊豆半島来訪者に旅行満足度や消費行動についてｱﾝｹｰﾄを実施。今後の施策基礎資料を作成。結果は HP に掲載。回答数 1564 件 ・サイクリングリゾート伊豆 PR 事業 WEB ﾍﾟｰｼﾞにﾚﾝﾀｻｲｸﾙｽﾎﾟｯﾄ、ﾓﾃﾞﾙｺｰｽ、絶景ﾎﾟｲﾝﾄを掲載。ｲﾍﾞﾝﾄへの出展(東京,川崎,名古屋)で伊豆の魅力の PR 実施。 ・伊豆半島一周サイクリング開催事業 期間型ｻｲｸﾘﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄに参画：参加者 321 人。新規ｻｲｸﾘｽﾄ獲得のため SNS 等を中心に PR 実施。ｽﾍﾟｼｬﾙﾁｬﾚﾝｼﾞﾃﾞｲとして「伊豆いち」を 7/6 に開催。 ・E-BIKE の聖地化推進事業 10/27 に E-BIKE を活用した婚活ﾂｱｰを実施。１組ﾏｯﾁﾝｸﾞ。 ・サイクリングエリア交流事業 ｻｲｸﾘﾝｸﾞ先進地とのｻｲｸﾘｽﾄ相互交流。伊豆半島のｻｲｸﾘﾝｸﾞｺｰｽの PR。「ｴﾛｲｶｼﾞｬﾊﾟﾝ」の開催支援と相互交流による PR。 ・風景街道活用事業 当センターが事務局をしている「なごみの伊豆　なごみの道」を道の駅をと連携し国交省沼津河川国道事務所とともに PR。SNS での広報５回、ｲﾍﾞﾝﾄでの広報３カ所
	国内観光誘客事業	・観光展への出展、伊豆物産展における観光 PR７ヵ所、観光キャンペーン実施。 ・ふじのくにしずおか大商談会参加（東京、大阪） ・ツーリズム EXPO ジャパン 2024 出展（９月） ・関西圏等旅行会社向けエージェントセールス(11 月) ・パンフレット２種類の制作（増刷 55,000 部)。 ・「誰もが楽しめる観光地　伊豆」魅力発信 ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾂｰﾘｽﾞﾑ取組調査及び調査結果の取纏め ・ペットに優しい伊豆の旅（ﾍﾟｯﾄﾂｰﾘｽﾞﾑ）調査推進 ﾆｰｽﾞの収集のためｲﾍﾞﾝﾄでのｱﾝｹｰﾄの実施。
	インバウンド（外国人観光客等誘客）事業	①インバウンド向け情報発信セールス ・韓国⇒静岡県現地事務所と連携した情報発信。ﾈｯﾄﾆｭｰｽ配信ｲﾍﾞﾝﾄ出展 ・シンガポール⇒JR 東日本と連携したｾｰﾙｽ・Japan Rail Fair 出展 ②インバウンド旅行商品開発 ・交通事業者と連携したインバウンドプロモーション JR との連携―シンガポール向け「伊豆半島セミナー」 台湾プレミアムミニツアーセールス ・ファムトリップ対応（アメリカ,韓国,タイ,台湾,国内） ③インバウンド旅行商品販売

		・台湾：エージェントセールス、トップセールス ・タイ、ベトナム；エージェントセールス
	伊豆半島情報発信強化事業	①情報発信強化事業 ・美伊豆公式 HP「B-IZU」の充実 アクセス数 555,906 件（前年比 180%） 特集記事の作成、ｲﾍﾞﾝﾄ情報、花暦 ・EXPLORE-IZU の運用（英語版 HP） アクセス数 85,121 件（前年比 157%） ・紙媒体 Japan Times での伊豆半島の桜紹介 ②SNS を活用した情報発信強化事業 ・対象：F1 層をターゲットにした SNS への投稿 ・ﾌｫﾛﾜｰ数： Instagram：16,252（前年：154%） ・情報発信強化業務委託　投稿 Instagram：15 本・X：13 本 ・Instagram への広告配信 ・エミー賞受賞監督が切り取る伊豆、リール動画の作成 動画 2 本、静止画投稿 2 本 第７回日本国際観光映像祭　国内映像 縦型動画部門にて最優秀賞を受賞 ・伊豆半島住む人・来る人感謝祭 Meta 広告掲出 ﾘｰﾁ 319,903 件、ｲﾝﾌﾟﾚｯｼｮﾝ 804,212 件
	ジオパーク基本計画・行動計画推進事業	・認定ｼﾞｵﾊﾟｰｸｶﾞｲﾄﾞ養成　受講生 20 名 7 名をガイドに認定 ・認定ｼﾞｵｶﾞｲﾄﾞ更新講習　43 名 ・更新ｽｷﾙｱｯﾌﾟ講座　２回開催　延べ 47 名参加 ・ジオ検定の実施 1.2 級受検者 34 名。合格者 1 級 3 名、2 級 13 名 ・ジオカフェの開催：４回 ・学校教育との連携事業　ジオ教材を活用した学校でのジオ学習の推進。教育機関での普及活動：小学校 11 校、中学校 7 校、高校 4 校、特別支援 1 校。職員研修 1 件。 ・ジオ学習新規導入学校への講師無償派遣 1 校。 ・ジオツーリズム促進事業　次世代ﾘｰﾀﾞｰの育成としての機会創出。
	ジオパーク調査研究事業	・研究関連活動事業　専門職員の各専門分野の研究活動 ・研究活動支援事業　伊豆半島を対象とした研究に対する費用助成：３件採択 ・GGN.AGN.JGN への参加、国内・海外からの視察・研修等の受入れ。（キルギス研修受入、西ジャワ州代表団、インドネシア・チレトゥジオパーク連携協定更新）
	ジオパーク地域連携事業	こども絵画コンクールの開催、パートナーシップを結んだ事業者とのイベント実施。ＳＤＧs 活動の情報発信、各ビジターセンターによる情報発信。
	ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業	・基本行動計画事業の実施。ｼﾞｵﾊﾟｰｸ運営への市民参画促進、文化財の視認性の強化、地質と文化の関わりのｽﾄｰﾘｰ化、文学ｲﾍﾞﾝﾄの実施。

ジオリア管理運営事業	・企画展の実施、ワークショップ屋外イベントの開催：11回。ビジターセンター情報交換会の開催：２回。
その他の事業	・各種協議会参加。関係団体との連携。

【令和５年度事業　主な事業項目】

事業	実施概要
ＤＭＯ推進事業	・ジオリゾート伊豆ブランディング事業 経営理念及びﾌﾞﾗﾝﾄﾞｽﾛｰｶﾞﾝの地域事業者等への周知と会員獲得。 ・観光防災推進事業 防災意識の醸成を図るため講演会を開催。観光団体、行政等 60 名参加。 ・サステナブルツーリズム事業 ｼﾞｵｶﾞｲﾄﾞ実施研修としてｲﾝﾀｰﾌﾟﾘﾃｰｼｮﾝ技術取得のため研修を 2 回実施 12 名参加。　令和４年度にﾂｱｰ造成した企画商品を「静岡県観光商品ｼｰﾄ」に 12 本掲載。 ・人材育成事業 ２大学３講義、１法人の企業研修での講師を行った。静岡大学「伊豆半島のｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ戦略」、日本大学国際関係学部「伊豆観光文化論」「ﾕﾈｽｺ世界ｼﾞｵﾊﾟｰｸの持続可能な伊豆半島」。東急ﾎﾃﾙｽﾞ＆ﾘｿﾞｰﾂ㈱「台湾ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞの現状と今後」。 ・観光に関する住民満足度調査事業 構成７市６町の住民に観光客の受入等についてｱﾝｹｰﾄを実施。回答数 3211 件。 ・ｼﾞｵ教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ推進事業 高校生向け教育旅行で使用する教材「伊豆×探求」を活用した教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを推進。勉強会２回、現地視察１回。 ・伊豆半島誘客ﾂｱｰｲﾝｾﾞﾝﾃｨﾌﾞ付与事業 旅行会社等の継続した誘客のためｲﾝｾﾞﾝﾃｨﾌﾞﾂｱｰを実施。 ・観光事業者採用支援事業 人材確保のため新卒者を対象に合同会社説明会を東京で実施。出展事業者 12 社。来場者 13 校 16 名。 ・インターシップ受入調整事業 専門学校２校（県内１、県外１）からのｲﾝﾀｰｼｯﾌﾟ受入要請に伴い旅館、ﾎﾃﾙと調整。102 名を受入。 ・ワーケーション推進事業 当法人が作成した特設ｻｲﾄをﾍﾞｰｽにｺﾝﾃﾝ制作を行い、昨年度実施のｱﾝｹｰﾄを踏まえた取材を実施。また施設の情報の更新、特集記事を SNS で発信。 ・伊豆半島満足度調査 伊豆半島来訪者に旅行満足度、消費行動についてｱﾝｹｰﾄを実施。今後の施策基礎資料を作成。結果は HP に掲載。回答数 2416 件 ・サイクリングリゾート伊豆 PR 事業 WEB ﾍﾟｰｼﾞにﾚﾝﾀｻｲｸﾙｽﾎﾟｯﾄ、ﾓﾃﾞﾙｺｰｽ、絶景ﾎﾟｲﾝﾄを掲載。ｲﾍﾞﾝﾄへの出展で伊豆の魅力の PR 実施。

		・伊豆半島一周サイクリング開催事業 期間型ｻｲｸﾘﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄに参画：参加者 301 人。新規ｻｲｸﾘｽﾄ獲得のため SNS 等を中心に PR 実施。ｽﾍﾟｼｬﾙﾁｬﾚﾝｼﾞﾃﾞｨとして「伊豆いち」を 1/28 に開催。44 名参加。 ・E-BIKE の聖地化推進事業 起伏に富んだ伊豆半島を気軽に電動自転車 E-BIKE で楽しむため、観光プロモーション動画制作、E-BIKE を活用した旅行商品を造成。 ・サイクリングエリア交流事業 ｻｲｸﾘﾝｸﾞ先進地とのｻｲｸﾘｽﾄ相互交流。伊豆半島のｻｲｸﾘﾝｸﾞｺｰｽの PR。「ｴﾛｲｶｼﾞｬﾊﾟﾝ」の開催支援と相互交流による PR。 ・風景街道活用事業 当センターが事務局をしている「なごみの伊豆　なごみの道」を道の駅をと連携し国交省沼津河川国道事務所とともに PR。
	国内観光キャンペーン事業	・観光展への出展、伊豆物産展における観光 PR、観光キャンペーンの実施。 ・関西圏へのｾｰﾙｽ　ｴｰｼﾞｪﾝﾄｾｰﾙｽ　7.10 月、ﾂｰﾘｽﾞﾑ EXPO 大阪出展 ・パンフレット３種類の制作。大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の情報発信、広報物作成。
	インバウンド（海外プロモーション）事業	・視察、来訪、取材対応：５社。セミナー、研修、モニターツアーの実施：７回。タイ芸能人による観光 PR。台湾向けパンフレット増刷。欧米、台湾向けオンライン記事の作成。 ・観光商品開発事業　ランドオペレーターを対象としたファムトリップの実施。静岡県観光協会などが開催する商談会への参加。 ・インバウンド向け旅行販売事業　台湾トップセールスの実施。
	伊豆半島情報発信強化事業	・情報発信強化事業　掲載情報の拡充、えきねっと後追いメールとの連携。 ・SNS 等を活用した情報発信事業　SNS プロモーション、セミナーの実施。
	ジオパーク基本計画・行動計画推進事業	・認定ジオガイド更新講習、スキルアップ講座、ジオ検定の実施。ジオカフェの開催：７回 ・学校教育との連携事業　ジオ教材を活用した学校でのジオ学習の推進。教育機関での普及活動：４校。ジオ学習新規導入学校への講師無償派遣２回。 ・ジオツーリズム促進事業　体験関係、モニターツアーの実施：２回
	ジオパーク調査研究事業	・研究関連活動事業　専門職員の各専門分野の研究活動 ・研究活動支援事業　伊豆半島を対象とした研究に対する費用助成：２件採択 ・GGN.AGN.JGN への参加、国内・海外からの視察・研修等の受入れ。
	ジオパーク地域連携事業	こども絵画コンクールの開催、パートナーシップを結んだ事業展開：５事業者。ジオポロシャツの販売、ＳＤＧs 活動の情報発信、各ビジターセンターによる情報発信。

ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業	・基本行動計画事業の実施。ｼﾞｵﾊﾟｰｸ運営への市民参画促進、文化財の視認性の強化、地質と文化の関わりのｽﾄｰﾘｰ化、文学ｲﾍﾞﾝﾄの実施。
ジオリア管理運営事業	・企画展の実施、ワークショップ屋外イベントの開催：11回。ビジターセンター情報交換会の開催：２回。
その他の事業	・各種協議会参加。関係団体との連携。

【令和４年度事業　主な事業項目】

事業	実施概要
ＤＭＯ推進事業	・ジオリゾート伊豆ブランディング事業　経営理念及びブランドスローガンを決定し、これに基づく重点施策の策定 ・防災減災啓発事業　「観光事業者向けの BCP(事業継続計画)作成セミナー」開催　観光団体など 12 社が参加 ・サステナブルツーリズム事業　モニターツアー造成を目的としたワークショップの開催、モニターツアーの実施、おもてなしジオガイド実施研修、ジオガイド評価認証制度に向けた検討会の実施 ・人材育成事業　静岡県立大学全学共通科目ジオパークをツールとした持続可能な観光素材の開発についての講演。日本大学国際関係学部「伊豆観光文化論」講義 ・観光コンテンツ商品開発事業　伊豆半島ジオパークへの夏合宿を首都圏地学部のある高校・中学 93 校に誘致。探求学習教材「伊豆半島×探求」作成。教育旅行教材作成。 ・観光事業者採用支援事業　伊豆半島ホテル温泉旅館オンライン合同会社説明会実施：18 校 165 名参加。インターンシップのマッチング：参加学生５名 ・デジタルマーケティング推進事業　観光消費額の変化や泊食分離に関する意識調査を実施。 ・ワーケーション推進事業　令和３年度調査のフィードバック。アンケート調査の実施。 ・サイクリングリゾート伊豆 PR 事業　WEB ページの作成。イベントへの出展で伊豆の魅力の PR 実施。 ・伊豆半島一周サイクリング開催事業　期間型サイクリングイベントに参画：参加者 360 人。サイクルボール優待店制度実施：４店舗登録。 ・E-BIKE の聖地化推進事業　E-BIKE 観光プロモーション動画制作、E-BIKE を活用した旅行商品造成 ・サイクリングエリア交流事業　台湾インフルエンサーによる動画作成 ・伊豆半島食コンテンツ強化事業　伊豆のプリンの販売会の実施：総売上約 180 万。ららぽーと物産展開催：総売上約 100 万。伊豆半島ポップアップストア　伊豆まるごと物産展開催：総売上約 450 万。伊豆半島住む人・来る人感謝祭：来場者数約 3,300 人
国内観光キャンペーン事業	・観光展への出展、伊豆物産展における観光 PR、観光キャンペーンの実施 32 箇所等の事業を実施。パンフレット３種類の制作。大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の情報発信、広報物作成、「相互割引企画」実施。

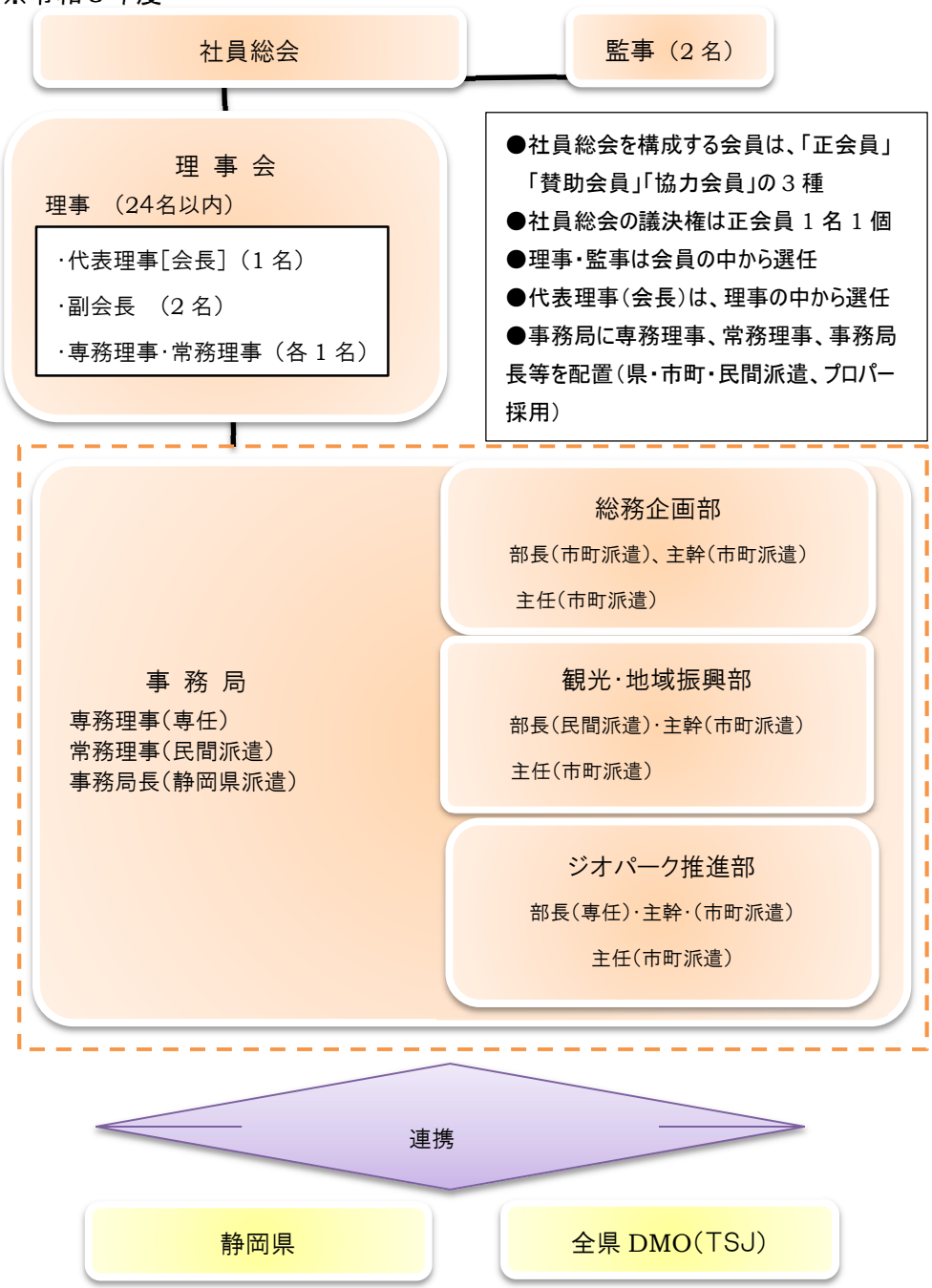
インバウンド（海外プロモーション）事業	・視察、来訪、取材対応：５社。セミナー、研修、モニターツアーの実施：７回。タイ芸能人による観光 PR。台湾向けパンフレット増刷。欧米、台湾向けオンライン記事の作成。Ｊapan Rail Fair 2022 出展 ・観光商品開発事業　ランドオペレーターを対象としたファムトリップの実施。静岡県観光協会などが開催する商談会への参加。国土交通省「水の里の旅コンテンツ 2022」インバウンド賞受賞。 ・インバウンド向け旅行販売事業　台湾トップセールスの実施。
伊豆半島情報発信強化事業	・情報発信強化事業　掲載情報の拡充、えきねっと後追いメールとの連携。 ・SNS 等を活用した情報発信事業　SNS プロモーション、セミナーの実施。
ジオパーク基本計画・行動計画推進事業	・ジオガイド養成講座の開催（第８期）、認定ジオガイド更新講習、スキルアップ講座、ジオ検定の実施。ジオカフェの開催：４回 ・学校教育との連携事業　ジオ教材を活用した学校でのジオ学習の推進、教育ワーキングの開催：３回。ESD ワーキングの開催：３回。教育機関での普及活動：４回。ジオ学習新規導入学校への講師無償派遣４回。 ・ジオツーリズム促進事業　体験関係、モニターツアーの実施：２回
ジオパーク調査研究事業	・研究関連活動事業　専門職員の各専門分野の研究活動 ・研究活動支援事業　伊豆半島を対象とした研究に対する費用助成：１件採択 ・GGN・APGN・JGN への参加、国内・海外からの視察・研修等の受入れ。
ジオパーク地域連携事業	こども絵画コンクールの開催、パートナーシップを結んだ事業展開：６回。ジオポロシャツの販売、ＳＤＧs 活動の情報発信、各ビジターセンターによる情報発信。
ユネスコ世界ジオパーク改善観光対応事業	・基本行動計画の英語版の作成、文化財のデータベース化、無形文遺産に関する講演や新聞記事の投稿実施、天城ビジターセンターにおける文学展示の制作、法人のガバナンスに関する情報の蓄積・公開、内陸部でのツアー造成
ジオリア管理運営事業	・企画展の実施、ワークショップ屋外イベントの開催：８回。ビジターセンター情報交換会の開催：２回。
その他の事業	・各種協議会参加。関係団体との連携。

【定量的な評価】

DMO 事業としては登録 DMO の更新を行い期限内に完了した。また、南海トラフ地震防災意識の意識付けとして観光防災に関する講演会を２回実施した。引き続き構成市町と連携をしていく。

	施策に反映させるため「観光に関する住民満足度調査」（回答数 3786 件）、「伊豆半島満足度調査」（回答数 1564 件）を実施した。「観光に関する住民満足度調査」ではインバウンドの受け入れに対して 10ﾎﾟｲﾝﾄ減となった。このため今年度の調査においてどんな問題点あるのか等詳細を尋ねる。 教育旅行プログラム事業においては、東京３社、大阪６社の旅行会社を訪問し本事業の推進を行った。その結果、高校２校、中学１校の来訪があった。 従業員確保のため実施（年１回東京での説明会）した観光事業者採用支援事業においては２名の内定者を確保できた。 国交省沼津河川国道事務所から受託した「風景街道活用事業」においては、SNS での５件の投稿、３カ所のイベントで広報を行い認知度向上に努めた。 国内観光誘客事業では首都圏での観光キャンペーン 13 回、エージェントセールス３カ所に参加し、当地の PR を行った。また、パンフレット２種類 55,000 部の増刷を実施し、キャンペーン等で配布した。 インバウンド事業は、財団法人台湾観光協会との包括的連携協定を令和５年度に締結したことから、各市町、交通事業者とも交流が深まっている。情報発信は台湾をはじめ、韓国、シンガポールで実施した。商品開発ではアメリカをはじめ３カ国１地域を受け入れた、一方、商品販売においてはタイ、ベトナム、台湾に向けたセールスを行った。 伊豆半島情報発信強化事業は、HP の充実に重点を置いたことから、アクセス数が対前年比 180%の 555,906 件となった。また、英語版の HP においても対前年比 157%の 85,121 件となった。これとともに SNS を活用した情報発信においてもターゲットを F1 層に絞り、利用者目線での発信にとしたことで Instagram 及び X のフォロワー数がともに１万人を超えた。 ジオパーク活動では、ユネスコ世界ジオパークとして取り組むべき事業として、伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク基本計画・行動計画（2021-2025）により策定されたＫＰＩに基づき進行管理を行っている。行動計画はユネスコ並びに世界ジオパークネットワークを進める。基本的活動指針の着実な遂行と SDG`s への貢献を念頭に定められている。主要活動は１）研究と保全２）教育活動３）ツーリズム・地域振興４）災害リスク軽減５）運営体制強化６）ネットワーク活動とパートナーシップ７）情報発信となっている。特に令和４年４月の組織統合・法人化により、ジオパークを素材とした地域振興・ツーリズム推進への取り組みを強化している。ジオツアーの実施者数は、令和６年度の実績は 245 件、22,311 名（昨年度 132 件、20,157 名）の参加者であった。また、定期的にジオガイド養成講座を開催、受講生 20 名うち７名をガイドに認定した。令和６年度末現在の認定ジオガイド数は 175 名(前年同期 183 名)である。 引き続き、ユネスコ世界ジオパークとして、ジオパークをテーマとした教育旅行や探究学習の素材を取り入れた新たな誘致や公共交通機関と連携したエコツーリズムの推進に取り組みながら、国際的に地学的な価値のある自然をはじめ、文化・生態資源と一体となった保全と活用により持続可能な地域づくりを目指していく。

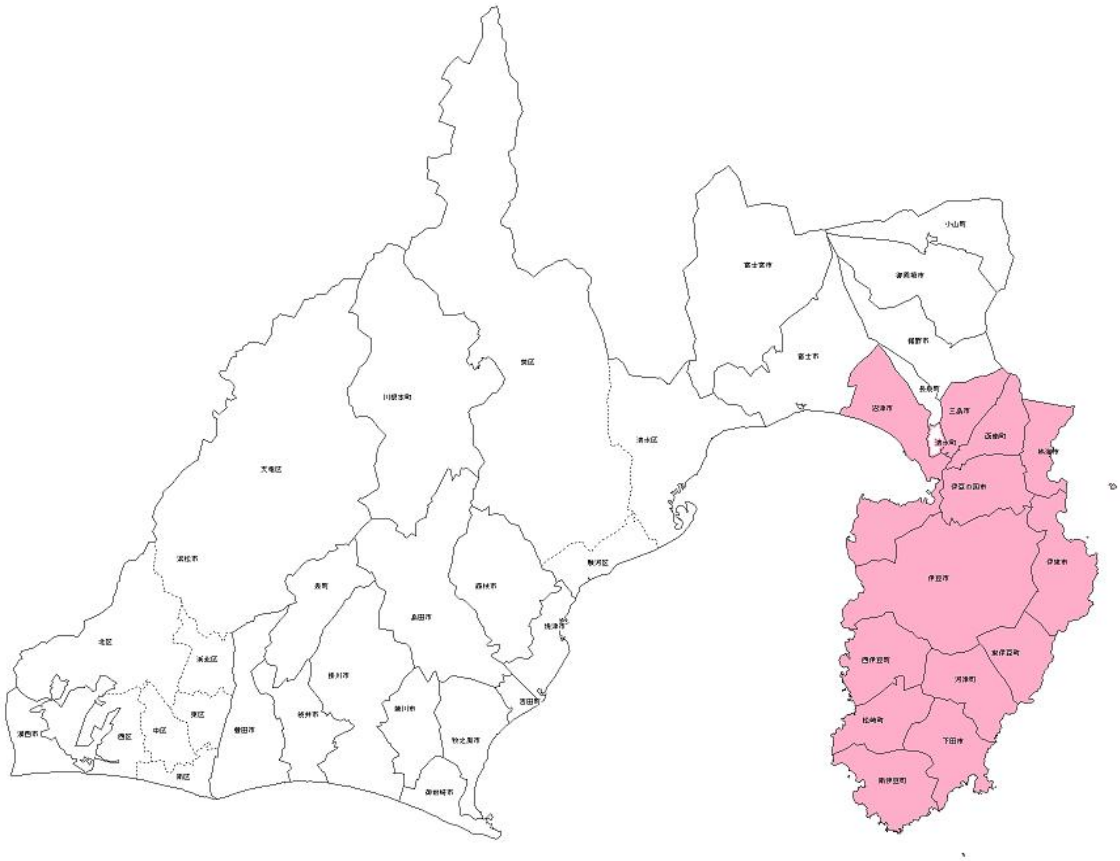
様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** ・一般社団法人美しい伊豆創造センターが中心的役割を担い、静岡県・伊豆半島７市８町の行政、観光協会、商工会議所・商工会、交通事業者等がメンバーとなり、地域の大学等教育機関、金融機関、シンクタンク、ＮＰＯ団体等との連携で事業を展開している。 ・静岡県が全県をエリアとして設立した静岡県全県 DMO と連携した取り組みを進めている。 ・広域行政連携組織として静岡県・各市町と連携し、観光関連事業である道路網の整備、ジオパークの整備、情報網の整備などを推進する協議会にも参画することで、ハード・ソフト両面から官民協働の体制で伊豆半島全体の活性化を目指す。 ※令和６年度 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

旧伊豆国の区域である伊豆半島内の市町の共通する様々な行政課題について協議を行い、その解決に向け相互に協力し合うことを目的として、平成 18 年 7 月に「伊豆半島 6 市 6 町首長会議」を設立。（平成 25 年 4 月に沼津市の加入により「伊豆半島 7 市 6 町首長会議」に改称）

平成 25 年 4 月に「称賛され続ける世界一美しい半島」を目指した伊豆半島グランドデザインを策定した。

平成 27 年 4 月には、グランドデザインを具現化する組織として、静岡県及び伊豆地域 13 市町の職員（専任）からなる「美しい伊豆創造センター」を設立。

美しい伊豆創造センターは、静岡県及び伊豆地域 13 市町の行政に加え、区域内の観光・商工関係団体、交通事業者等を会員として、官民協働により観光キャンペーン、インバウンド誘致、ＤＭＯ組織形成に向けたマーケティング、人材育成事業に取り組んでいる。

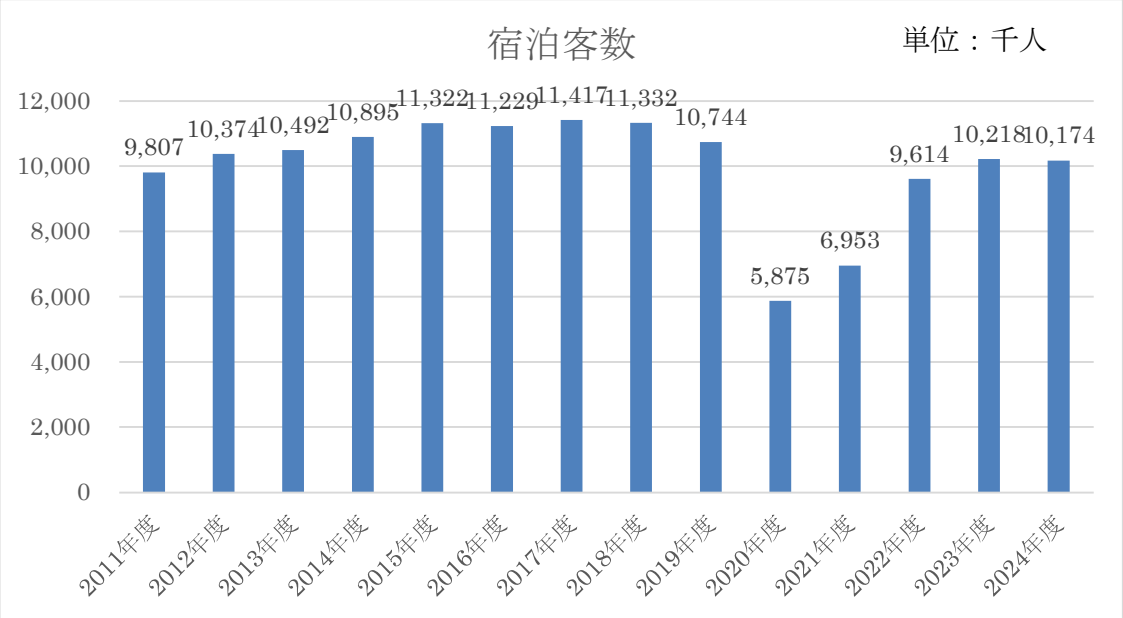
令和４年度にジオパーク推進協議会と統合し、長泉町・清水町が新たな連携自治体となったが、伊豆半島ジオパークの保全教育のみの連携となるため、DMO としてのマネジメントの対象区域外とする。

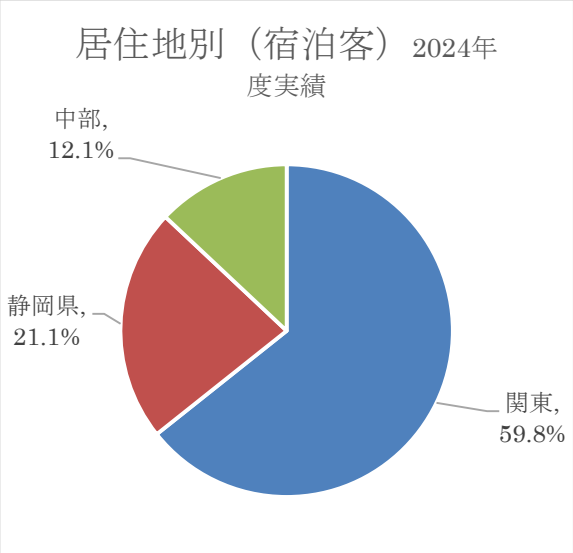
伊豆半島地域は、歴史的に“首都圏の奥座敷”として富士箱根伊豆エリアの一角を担い、「温泉」、「自然景観」、「花」、「新鮮な魚介類」などの観光資源は共通しており、当該市町で連携した区域設定とすることが適切。

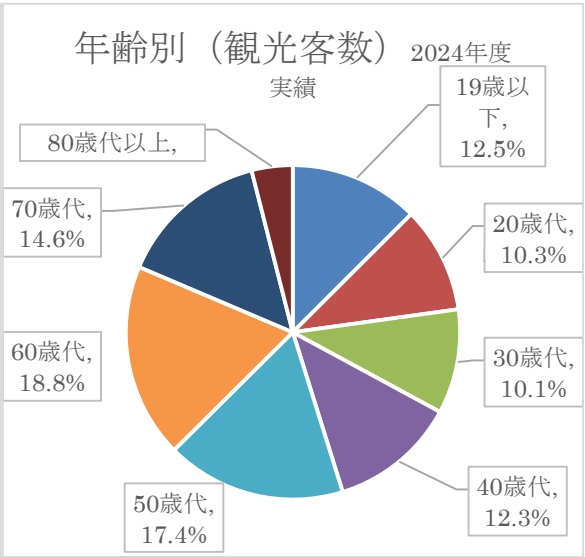
様式１

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。







【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

■ 世界遺産（文化遺産）

○ 富士山 ～信仰の対象と芸術の源泉～

富士の眺望	初島（熱海市） 大室山山頂（伊東市） 長者ヶ原（南伊豆町） 雲見海岸（松崎町） 今山遊歩道（西伊豆町） 沼津港大型展望水門びゅうお（沼津市） 三島スカイウォーク（三島市） だるま山高原レストハウス（伊豆市） 伊豆の国パノラマパーク（伊豆の国市） 十国峠（函南町）

○ 韮山反射炉 ～明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業～ 構成資産

■ 伊豆半島ジオパーク

	観光資源	ミュージアム
伊豆半島全域構成 15 市町	伊豆半島ユネスコ世界ジオパークのサイト	伊豆半島ジオパーク中央拠点施設「ジオリア」 各市町が運営するビジターセンター(15 ヶ所)

様式１

■ 伊豆半島７市６町の観光資源

		歴史	ミュージアム
熱海市		起雲閣 芸妓見番（湯めまちをどり華の舞）	ＭＯＡ美術館 澤田政廣記念美術館
伊東市		伊東温泉観光・文化施設 東海館	木下杢太郎記念館 伊東東郷記念館
賀茂地域	下田市	了仙寺 玉泉寺	ハーバーミュージアム 上原美術館 下田開国博物館
	東伊豆町	江戸城築城石ふるさと広場 稲取八ヶ寺めぐり	ギャラリー福々和神面
	河津町	川津来宮神社	伊豆ならんだの里 河津平安の仏像展示館 ＩＺＯＯ，ＫＡＷＡＺＯＯ
	南伊豆町	ニール号招魂碑 小稲虎舞 妻良盆踊り 石室神社 三島神社	石垣りん文学記念館 石廊崎オーシャンパーク
	松崎町	室岩洞 石部の棚田	伊豆の長八美術館 重要文化財 岩科学校
	西伊豆町	佐波神社の三番叟 安良里不動尊（授宝山大聖寺）	黄金崎クリスタルパーク 伊豆トリックアート迷宮館
沼津・田方地域	沼津市	沼津御用邸記念公園 長浜城跡	若山牧水記念館 芹沢光治良記念館 戸田造船郷土資料博物館・駿河湾深海生物館
	三島市	山中城跡公園 三嶋大社 楽寿園（楽寿館）	佐野美術館 三嶋暦師の館
	伊豆市	修禅寺 天城山隧道（旧天城トンネル）	土肥金山 昭和の森会館 伊豆市資料館 伊豆半島ジオパークミュージアム『ジオリア』
	伊豆の国市	国指定史跡・世界遺産 韮山反射炉 願成就院	江川邸 伊豆の国市郷土史料館
	函南町	丹那断層公園 柏谷横穴群	かんなみ仏の里美術館 月光天文台

		食	**ウォーキング・体験**
熱海市		**海鮮 だいだい（だいだい製品） 網代イカメンチ 熱海プリン**	**十国峠・姫の沢公園ハイキング 熱海港海釣り施設**
伊東市		**いとうナゲット まご茶漬け ちんちん揚げ**	**ゆったり・湯めまちウォーク 芸者体験～お座敷文化大学～**
賀茂地域	**下田市**	**金目鯛**	**「し～もん」伊豆下田のアウトドア・自然体験案内所**
	東伊豆町	**稲取キンメ 肉チャーハン こらっしぇ**	**つるし飾り制作体験工房絹の会 茶房＆体験工房さくら坂**
	河津町	**わさび丼 あんバタわさこ**	**舟戸の番屋**
	南伊豆町	**伊勢えび 温泉メロン**	**日和山遊歩道 タライ岬遊歩道**

		海産物 たけのこ	石廊崎岬めぐり 波勝崎モンキーベイ
	松崎町	川のり 桜葉	三浦歩道 漆喰鏝絵 人力車
	西伊豆町	かつお製品 海産物 はんばた市場	西伊豆歩道（燈明ヶ崎） 海・山の体験
沼津・田方地域	沼津市	沼津のひもの お茶 西浦みかん 沼津港 深海プリン	潮の音プロムナード 沼津アルプス 旧東海道散策ルート
	三島市	三島うなぎ（うな丼） みしまコロッケ 箱根西麓三島野菜	せせらぎルート 三嶋大社正式参拝ツアー 箱根西坂富士美コース
	伊豆市	わさび・しいたけ イズシカ丼（鹿肉） 白びわ	日本サイクルスポーツセンター 天城サイクリング
	伊豆の国市	温泉まんじゅう とまと・スイカ・たくあん	フルーツ狩り（いちご・みかん・ブルーベリー・お茶） カヌー体験
	函南町	丹那牛乳 ソフトクリーム 函南西瓜	日守山公園 乳搾り体験 手作りバター体験

		海	花火大会
熱海市		熱海サンビーチ 長浜海水浴場 網代温泉海水浴場	熱海海上花火大会 ほか
伊東市		伊東オレンジビーチ 城ヶ崎海岸 ダイビング	按針祭海の花火大会 伊東温泉「夢花火」 とっておき冬花火大会＆よさこいｿｰｽﾞﾗ祭り
賀茂地域	下田市	白浜大浜海水浴場 吉佐美大浜海水浴場 外浦海水浴場	黒船祭 海上花火大会 白浜海の祭典・花火大会 下田太鼓祭納涼花火大会
	東伊豆町	熱川ＹＯＵ湯ビーチ 稲取池尻海岸ウキウキビーチ	熱川温泉海上花火大会 片瀬温泉炎艶美
	河津町	今井浜海水浴場	今井浜花火大会
	南伊豆町	弓ヶ浜 谷川浜 奥石廊崎 ヒリゾ浜	弓ヶ浜花火大会 中木火祭り 妻良盆踊り花火大会
	松崎町	千貫門 シーカヤック ダジュール岩地	松崎海岸花火大会 岩地海岸花火大会 雲見海岸花火大会
	西伊豆町	大田子海岸の夕陽 堂ヶ島のトンボロ 堂ヶ島天窓洞	堂ヶ島火祭り
沼津・田方地域	沼津市	千本浜海岸 大瀬崎 御浜岬	沼津夏まつり・狩野川花火大会
	三島市		三島夏まつり・手筒花火
	伊豆市	土肥海水浴場 小土肥海水浴場	弘法大師奉納花火大会 土肥サマーフェスティバル

		恋人岬	
	伊豆の国市		伊豆の国花火大会 かわかんじょう
	函南町		in 狩野川かんなみ猫おどり花火

		花	
熱海市		［春］熱海城の桜 ［春］アカオハーブ&ローズガーデン バラ ［春］姫の沢公園 ツツジ ［夏］熱海海岸沿い ジャカランダ	［夏］糸川 ブーゲンビリア ［冬］熱海梅園 梅 ［冬］糸川 あたみ桜
伊東市		［春］さくらの里 ［春］伊豆高原桜並木 ［春］小室山つつじ園 ［夏］城ヶ崎海岸 ハマカンゾウ ［夏］林泉寺 藤棚	［夏］松川湖 キンシバイ ［秋］一碧湖周辺等 紅葉 ［秋］松川湖 パンパスグラス ［冬］小室山つばき園 椿
賀茂地域	下田市	［春］下田公園 あじさい ［春］アメリカンジャスミン ［夏］吉佐美ボードウォーク はまぼう	［冬］爪木崎 水仙 ［冬］白浜板戸 アロエ
	東伊豆町	［春］熱川桜坂公園 桜 ［春］伊豆アニマルキングダム 梅 ［春］稲取文化公園 枝垂れ花桃 ［春］東伊豆町クロスカントリーコース桜	［夏］済広寺 夜香樹 ［秋］稲取細野高原 すすき ［冬］大川自然椿園 やぶ椿
	河津町	［春］河津バガテル公園 春バラ ［春］河津桜	［春］菜の花 ［秋］河津バガテル公園 秋バラ
	南伊豆町	［春］長者ヶ原 山ツツジ ［春］マーガレット ［春］菜の花 ［春］青野川 みなみの桜 ［夏］奥石廊崎 ユウスゲ	［夏］ひまわり ［夏］ササユリ ［秋］アロエ ［冬］ストレリチア
	松崎町	［春］田んぼをつかった花畑 ［春］長九郎山 しゃくなげ	［夏］アジサイ
	西伊豆町	［春］黄金崎 桜	［春］西天城高原 豆桜
沼津・田方地域	沼津市	［春］香貫山 桜 ［春］金冠山 まめ桜 ［春］沼津御用邸記念公園 藤	［夏］御用邸記念公園ほか スカシユリ ［秋］御用邸記念公園 菊華展 ［冬］井田地区 菜の花
	三島市	［春］三嶋大社 枝垂れ桜 ［春］遺伝学研究所と桜並木	［夏］三島梅花藻 ［秋］楽寿園菊まつり 菊
	伊豆市	［春］伊豆最福寺 しだれ桜 ［春］天城グリーンガーデン しゃくなげ ［春］修善寺虹の郷 バラ ［夏］修善寺虹の郷 花しょうぶ	［夏］土肥 ハマボウ ［秋］修善寺虹の郷・修善寺温泉街 菊 ［秋］修善寺虹の郷・天城山隧道等 紅葉 ［冬］土肥桜
	伊豆の国市	［春］伊豆の国パノラマパーク ツツジ ［春］江間の桜 ［春］大仁瑞泉郷 芝桜・やまぶき等 ［夏］成福寺 蓮	［夏］城池 花しょうぶ ［秋］パノラマパーク 紅葉 ［秋］北条寺 白い彼岸花 ［冬］大仁梅林
	函南町	［春］柿沢川 かんなみの桜 ［春］日守山 桜	［夏］十国峠 紫陽花

■ 主な日本百選

快水浴場百選	環境省	白浜中央海水浴場・外浦海水浴場（下田市）、弓ヶ浜海水浴場（南伊豆町）、大瀬海水浴場（沼津市）
平成の名水百選		源兵衛川（三島市）
かおり風景 100 選		松崎町桜葉の塩漬け（松崎町）

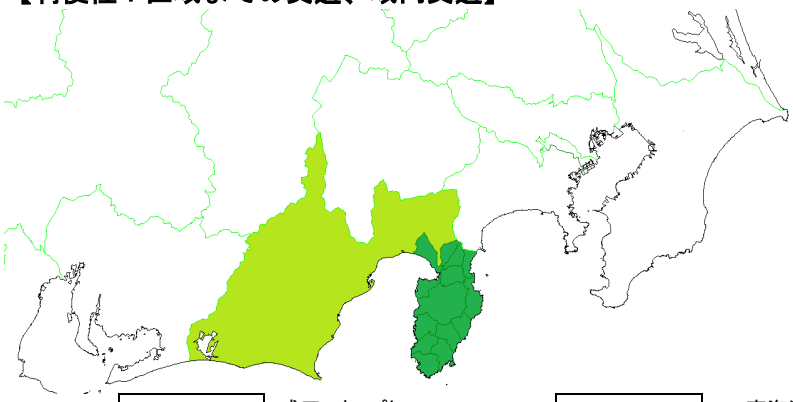
歴史の道百選	文化庁	東海道－箱根旧街道－湯坂道・西坂（三島市・函南町）、下田街道－天城峠（河津町）
甦る水 100 選	国土交通省	甦る金色夜叉の浜辺（熱海市）
日本の歴史公園 100 選		沼津御用邸記念公園（沼津市）、三島市立公園楽寿園（三島市）
島の宝 100 景		初島 受け継がれる知恵と自然の恵み「エビ網」（熱海市）
都市景観 100 選		沼津御用邸記念公園周辺地区（沼津市）
水の郷百選		水と緑と人が輝く夢のある街 三島（三島市）
日本の都市公園百選		姫の沢公園（熱海市）
日本の道百選		国道 414 号天城路（河津町・伊豆市）
ため池百選	農林水産省	中郷温水地（三島市）
疎水百選		源兵衛川（三島市）
日本の棚田百選		荒原の棚田・下ノ段の棚田（伊豆市）、北山の棚田（沼津市）
水源の森百選	林野庁	天城山水源の森（伊豆市）、函南原生林（函南町）
森の巨人たち百選		天城山太郎杉（伊豆市）、シラヌタの大杉（東伊豆町）
森林浴の森百選		天城山自然休養林（伊豆市）
新エネ百選	経済産業省	水力発電再生事業［落合楼発電所］（伊豆市）
近代水道百選	厚生労働省	丹那水源（熱海市）、柿田川湧水水源（沼津市）
日本の秘境百選	日本交通公社	中伊豆 猫越峠（伊豆市）
新日本旅行地 100 選		石廊崎（南伊豆町）、修善寺温泉（伊豆市）、熱海温泉（熱海市）、天城高原（伊豆市・河津町）
にっぽんの温泉 100 選	観光経済新聞	修善寺温泉・土肥温泉（伊豆市）、熱海温泉（熱海市）、伊東温泉（伊東市）、観音温泉・下田温泉（下田市）、稲取温泉・熱川温泉（東伊豆町）、堂ヶ島温泉（西伊豆町）

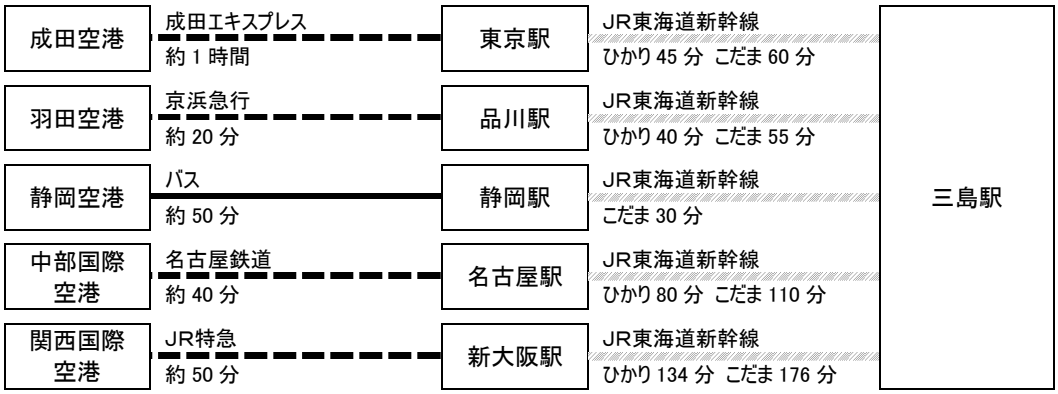
【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

	事業所数			従業員数			1事業所当たりの平均従業員数		
	H28 年度	R3 年度	増減	H28 年度	R3 年度	増減	H28 年度	R3 年度	増減
熱海	185	163	−22	4,313	3,546	−767	23.3	21.8	−1.5
伊東	375	314	−61	4,085	3,772	−313	10.9	12	1.1
賀茂地域	700	532	−168	5,658	4,744	−914	8.1	8.9	0.8
沼津･三島･田方地域	347	287	−60	5,170	4,584	−586	14.9	16	1.1
合計	1,607	1,296	−311	19,226	16,646	−2,580	12.0	12.8	0.8

伊豆地域 15 市町すべてに宿泊施設（事業所）が立地している。
首都圏からの入口にあたる「熱海」「伊東」には温泉旅館・ホテル、寮・保養所が集積している。
伊豆南部にあたる「賀茂地域」では、「熱川・稲取（東伊豆町）」、「堂ヶ島（西伊豆町）」などの温泉場に旅館・ホテルが集積するほか、全域で民宿が数多く立地している。
伊豆北部・中央に位置する「沼津・田方地域」では、「修善寺・土肥（伊豆市）」、「伊豆長岡（伊豆の国市）」に温泉旅館・ホテルが、伊豆地域の中心的都市である「沼津」「三島」にはビジネスホテルの集積がみられる。近年は経営者の高齢化や後継者不足により民宿の廃業が増えている。
（資料：「令和３年経済センサス活動調査」総務省・経済産業省）

【利便性：区域までの交通、域内交通】





【外国人観光客への対応】

アクションプランにて定めたターゲット（台湾・タイ・中国・韓国、欧米豪）に向けて、台湾・タイ向けには単独事業としてＦＩＴ誘致に向けた観光展出展等のＢｔｏＣプロモーションを実施していたが、エージェントセールスやオンラインツールの整備とＳＮＳプロモーションへ転換中。令和３年度はアジア最大級の OTA と包括連携協定を締結し観光商品の海外向け販路の整備を図った。

欧米豪向けには全県ＤＭＯ組織ＴＳＪ（Tourism Shizuoka Japan）のマーケティングに基づき、連携してＢｔｏＢプロモーション・セールスを実施、ミシュラングリーンガイドへの域内コンテンツ掲載を実現している。

また、静岡県が設置する海外駐在員との協力により、旅行者のニーズ把握・伊豆エリアの紹介・観光関連企業のマッチングなど、訪日外国人増加に向けた取り組みを進めている。

【静岡県海外駐在員事務所】
中国（上海）
韓国（ソウル）
台湾（台北）
東南アジア（シンガポール）

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光客動態調査	将来的な観光消費額の増加を図るための基礎資料を収集するため。	アンケート調査を自主事業として実施。
伊豆半島満足度調査	伊豆半島への観光交流客の満足度向上に貢献するため。	アンケート調査を自主事業として実施。（R5.6 事業）

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

人口は産業が集積している伊豆半島北部と高齢化と減少が続く南部では環境は異なるが、半島全体では減少が進んでいる。地域の主要産業は観光業であり、影響を受ける業種も多いことから、観光業の活性化が必須の状況となっている。

観光交流人口は、東日本大震災以降、年々回復に向かっていたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響で 2020 年度（令和２年度）は感染拡大前の 2019 年度（令和元年度）の 50%程度まで落ち込んだ。しかしながら、コロナ５類移行した 2023 年度（令和５年度）は速報値で 2019 年度（令和元年度）の 85%程度まで回復した。これまで、伊豆半島のメインの顧客層は関東圏の 50 歳以上のリピーターが６割を占めていたが、2020 年度（令和２年度）は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、20 歳～40 歳代、静岡県内からの来訪、初めての来訪の割合が若干増えるなど、観光交流客の動向にも変化が見られた。今後、落ち込んだ観光消費を回復させるため、国内およびインバウンド旅客の増加や消費単価の向上に向け、多様な関係者と連携した取組の強化が必要である。

令和６年度は、以下の主要事業、商品等を核として、コンセプトとターゲットを明確化し事業推進していく。

〈ＤＭＯ〉
・企画商品の展開や観光消費額拡大　・観光に関する住民満足度調査
〈国内観光〉
・渋滞緩和支援と情報発信拡大
〈インバウンド〉
・準富裕層小グループ向け新商品開発　・インバウンド向け情報発信
〈ジオパーク〉
・ESD 活動拠点としての活動　・ユネスコ世界ジオパーク再認定対応

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・豊富で特色のある自然資源【=ジオ】** **・食文化、歴史、文学の宝庫【=ジオ】** **・首都圏からの距離的な近さ** **・温暖で住みやすい気候** **・長い歴史を経て築かれたブランド** **・アクティビティ**	**弱み（Weaknesses）** **・交通渋滞等交通網の脆弱さ** **・災害への脆弱性** **・生産年齢人口減少、高齢化** **・コロナ感染症拡大による観光関連産業事業者の減少・従事者の減少** **・低い高次都市機能の集積**
外部環境	**機会（Opportunity）** **・ユネスコ世界ジオパーク認定（R４.12 月認定）** **・世界文化遺産登録（富士山・反射炉）** **・東京五輪の静岡県内開催** **・羽田空港国際化、富士山静岡空港の充実** **・ＪＲ東日本重点販売キャンペーン** **・アクティブシニア層の拡大、アジアの富裕化**	**脅威（Threat）** **・３連動、相模トラフ等の地震** **・台風、豪雨の増加** **・旅行支出割合の低下、価格競争** **・競合地域の拡大（格安航空、リニア整備）** **・首都圏の大型集客施設**

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
　台湾(準富裕層)をメインターゲットとし、訪日リピーター対象の小規模高付加価値ツアー販売に注力する。(台湾での販売状況を検証後、韓国・シンガポール・タイなど、東アジア・東南アジア各国へ展開を検討する)

〇選定の理由
　2019 年におけるリピーター市場第１位の台湾をメインターゲットとする。
　2016 年以降、台湾から東北地方をはじめとした日本の地方都市（非観光地）を行き先とした 4-8 人規模の小規模低価格ツアー(ミニツアー)が急増しているが、価格の課題もあり伊豆商品はまだ開発されていない。そこで、準富裕層対象の伊豆半島小規模高付加価値ツアーを「伊豆プレミアムミニツアー」として開発造成し、主力商品として販売促進していく。

〇取組方針
・中国との区別化を明確にした、繁体中国語（および台湾語）による情報発信を整備・強化する。
・コロナ禍期間中に駐日台湾政府高官・台湾観光局長・台湾観光協会会長等社会的影響力の高いインフルエンサーに直接複数回モニター実踏いただいたプレミアムミニツアー推奨案を、ランドオペレーターと共に台湾旅行会社へ直接営業展開する。
・まず台湾マーケットにおいて商品販売を開始し、商品価値を高めることに集中する。その後成果を検証し東アジア等各国対応商品への変化対応を検討する。

〇第２ターゲット層
　首都圏在住一般消費者

〇選定の理由
　コロナ禍以前の来訪者最大ボリュームゾーン(76%)であり、国内マーケットにおける最大のターゲットである。特に F1 層へのアプローチ強化による 35 歳未満クラスターの底上げを図りたい。

〇取組方針
　開発済の着地型(体験型)旅行商品・グルメ情報・宿泊施設情報・ジオ教育体験プログラムを核に
　・旅行会社へのエージェントセールス拡大
　・SNS を主とした情報メディアミックスによる F1 層以下を対象とした B2C プロモーション展開
　・物産展と連携した B2C プロモーション展開

〇第３ターゲット層
　大阪府・京都府・兵庫県を主とした関西マーケット

　これまで関西マーケットにおいては、首都圏デスティネーションは TDR(＋近隣)の 2 泊が主であり、伊豆宿泊、特に伊豆連泊は検討対象外であった。また冬場のメインデスティネーションは越前ガニを主とした北陸であったが、昨年度末の北陸新幹線敦賀延伸によりサンダーバードが廃止となり、関西圏旅行会社も北陸に代わる代替案として「富士山＋河津桜を主とした伊豆連泊商品」に強く興味を示してくれている。

〇取組方針
・富士山眺望率の高い冬季キャンペーン商品として富士山＋河津桜による伊豆連泊商品プロモーションを展開し、サンダーバード廃止後の関西圏における冬期主力商品として位置づけたい。
・９月東京開催のツーリズムエキスポジャパンにおいて新商品発表、エージェントセールスによる商品プロモーションを展開する。

〇第４ターゲット層
　欧米をはじめとした SIT 系小規模ツアー（特にサイクルツーリズムマーケット）

〇選定の理由
　2020 東京オリンピック・パラリンピック自転車競技会場となった伊豆半島ではオリパラレガシーとしてもサイクルツーリズム推進に注力している。コロナ禍空けの 2022 年秋以降、ジャパンマウンテンバイクカップ開催誘致（海外選手７名参加)、イタリア発祥ヴィンテージ自転車サイクリングイベント L’Eroica Japan の伊豆連続開催など、サイクルツーリズムのインバウンドデスティネーションとして徐々に知名度を上げつつある。

様式１

○取組方針 静岡県観光協会(TSJ)との連携による欧米豪ファムトリップ受入拡大や静岡県が出展するアジア最大の台北サイクルショーへの協同参加に加え、L’Eroica イタリア本部大会における Eroica Japan24 プロモーションなども展開していきたい。
○第５ターゲット層 静岡県内および「山の洲(やまのくに/静岡・山梨・長野・新潟)」相互交流拡大
○選定の理由 コロナ禍において県内および近隣県からの修学旅行誘致推進や「今こそしずおか元気旅」実施により県内（および近隣）交流実績を上げることができた。修学旅行デスティネーションは京都奈良、東京都内などコロナ以前に戻っているため、(修学旅行以外の)探求学習・宿泊研修などの教育旅行需要の取り込みを維持拡大する。また、中部横断自動車道の開通により利便性の高まった山梨・長野・新潟との相互交流の拡大を目指す。 ○取組方針 ・ジオ教育プログラムのプロモーション強化による校外学習誘致拡大 ・駿河湾フェリー利用拡大に向けた商品プロモ―ション

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	〈経営理念〉 ジオパークを舞台に、来訪者と生活者の満足度向上に貢献し、美しい伊豆半島の持続的成長を創造する。 〈ブランドスローガン〉 ジオの恵み　住む人来る人に 〈持続的可能な観光の振興のキーワード〉 ジオリゾート伊豆
②コンセプトの考え方	2022 年４月に美しい伊豆創造センターは、旧伊豆半島ジオパーク推進協議会と統合した。これにより、ユネスコ世界ジオパークの一翼を担う伊豆半島ジオパークとして、世界的にも高い価値を有する伊豆半島の地質遺産の保全や地域の担い手を育てる教育、防災意識の啓発など旧推進協議会が担ってきた地域に密着した公益性の高い事業を継承した。今後は、これらを強みとしつつ、当センターがこれまで地域連携 DMO として培ってきた観光振興のノウハウを融合させ、その相乗効果を最大限発揮していく。 また、観光振興は、ともすれば来訪者と観光関連事業者のためにあると受け止められがちであるが、私たちは、持続可能な観光振興のため、伊豆半島に暮らす全ての生活者が、物心両面で満たされ、観光関連事業者以外の多様なサービス業も含め、地域の産業を全体として活性化すること意識してゆく。 （美しい伊豆創造センター3 か年活動計画「経営理念にかける思い」から一部抜粋 ）

様式１

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	・社員総会 ・理事会 ・企画運営委員会、観光・地域振興委員会、ジオパーク委員会 ・観光・地域振興委員会実務担当者会議 ・その他：インバウンド・サイクリング関連事業担当者会議
	・社員総会：年１回実施。社団法人全会員にて事業報告及び理事選任等組織との最高決議機関 ・理事会：年３回程度実施。13 市町首長、交通事業者社長、商工会議所会頭、観光協会長、県旅館組合理事長等 24 名の理事で構成。事業計画・予算等について協議。 ・企画運営委員会：15 市町観光関連部門部課長および理事が所属する団体の事務責任者で構成。理事会審議事項の事前協議。 ・観光・地域振興委員会：観光関連事業者代表者対象に年２回程度実施。理事会上程事項の事前審議。 ・ジオパーク委員会：15 市町の観光関連部門・教育部門等の関係者、ジオパーク関係者を対象に年３回程度実施。伊豆半島ジオパーク関連事業の推進に関することを審議。 ・観光・地域振興委員会実務担当者会議　観光関連事業者の担当者会議として不定期に実施。国内誘客事業全般の協議や調査結果フィードバック等を行っている。 ・その他インバウンド・サイクリング関連事業担当者会議：必要に応じて不定期に行政・関連事業者等で実施。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	全体の旅行者満足度については、「静岡県における観光の流動調査と満足度調査」の数値を参照するとともに観光コンテンツ毎に魅力度調査により評価を行っている。また、宿泊関連事業者の新卒者採用支援を目的に合同企業説明会や個別大学・専門学校のインターンシップの参画学校を拡大し、より良い人材の確保に努めている。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	ＪＲ東日本重点販売キャンペーンを中心に、広域での出向宣伝や SNS を活用した一元的なプロモーションを行っている。また、公式 Web サイトをリニューアルし、各市町担当者が CMS を活用した能動的な情報発信がタイムリーにできる仕組みを構築した。このほか、伊豆全域において最適な周遊ルートを自動作成できるサービスをサイト内に導入し、エリア内市町を巡る仕組みを構築した。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	215,131	249,339	284,356	320,211	336,786	336,786
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	264,342	306,060	312,007			
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
●延べ宿泊者数（千人）	目標	8,295	9,505	10,715	11,925	10,000	10,000
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	9,614	10,218	10,471			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●来訪者満足度（%）	目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.5	98.5
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	99.3	99.1	99.2			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●リピーター率（%）	目標	67.0	67.0	67.0	67.0	73.5	73.5
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	73.2	77.0	77.1			
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

〈2021 年度まで〉

2017 年度に策定した「伊豆半島観光戦略」に基づき、ＫＰＩとする指標データ整理及び目標の再設定を行った。尚、目標数値については、広域かつ多数のステークホルダーの方々と共有できる数値とした。コロナ禍収束による観光交流再開の見通しが立たないため、2021 年度は、2018 年度実績数値（一部端数処理）を置くこととした。

〈2022 年度以降〉

直近の 2020 年度実績を基準値として、段階的に新型コロナ収束を見込んだ静岡県の観光基本計画の増加率を参考に算出した。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

「静岡県観光交流の動向」の県内消費単価及び旅行客数（実数）の推計をもとに観光入込客数及び延べ宿泊者数の現状値を乗じて算出。

2022 年度以降の目標値は、算定根拠である観光入込客数・延べ宿泊者数（2020 年度実績値）を基準値として、段階的に新型コロナ収束を見込んだ静岡県の観光基本計画（2022 年 4 月発表）の増加率等を参考に算出。

●延べ宿泊者数
「静岡県観光交流の動向」より引用。
2022 年度以降の目標値は、直近の 2020 年度実績を基準値として、段階的に新型コロナ収束を見込んだ静岡県の観光基本計画（2022 年 4 月発表）の増加率を参考に算出。
●来訪者満足度
「静岡県における観光の流動調査と満足度調査」より引用。
目標値は、来訪者満足度はかなり上限に近づいているが地域魅力向上を目論み 98.5%とした。
●リピーター率
「静岡県における観光の流動調査と満足度調査」より引用。
目標値は、リピーター率は新規顧客増と相対することから現状維持に固定。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●Web サイトアクセス数（PV/月）	目標	90,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	16,206	25,693	555,509			
		（ ）	（ ）				
●観光入込客数（千人）	目標	32,662	37,460	42,258	47,056	47,000	47,000
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	36,931	39,003	39,319			
		（ ）	（ ）				

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
2017 年度に策定した「伊豆半島観光戦略」に基づき、ＫＰＩとする指標データの整理及び目標の設定を行った。

【設定にあたっての考え方】
●Ｗｅｂサイトアクセス数
2021（R3）年度までは、伊豆半島全域の観光情報サイト「ゆうゆうネット伊豆」のアクセス数とした。2018 年度・2019 年度は、ドメイン変更やサイトの大幅改修等を実施。アクセス数の減少が目立つ。2022(R4)年度からは新たなサイト「美伊豆Ｂ－IZU」のアクセス数とした。

●観光入込客数
「静岡県観光交流の動向」より引用
2022 年度以降の目標値は、直近の 2020 年度実績を基準値として、段階的に新型コロナ収束を見込んだ静岡県の観光基本計画（2022 年 4 月発表）の増加率を参考に算出。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	196,645,747（円）	○ １５市町負担金	112,579,732 円
		○ 会員会費（正会員 20,000 円以上）	3,957,000 円
		○ 地域づくり推進助成	21,117,900 円
		○ 市町フレンドシップ推進事業	10,582,000 円
		○ 静岡県補助金	11,449,912 円
		○ ＪＫＡ補助金	2,600,000 円
		○ 受取負担金	1,943,900 円
		○ 事業収入	13,056,113 円
		○ 受取寄付金	19,112,517 円
		○ 雑収益	246,673 円
2023（Ｒ５）年度	176,214,454（円）	○ １５市町負担金	117,080,422 円
		○ 会員会費（正会員 20,000 円以上）	3,931,000 円
		○ 地域づくり推進助成	24,698,720 円
		○ 市町フレンドシップ推進事業	7,568,000 円
		○ 静岡県等補助金	11,684,375 円
		○ ＪＫＡ補助金	1,599,200 円
		○ 事業者負担金	479,000 円
		○ 事業収入	8,282,101 円
		○ 寄付金	612,620 円
		○ 雑収入	278,016 円
2024（Ｒ６）年度	166,831,019（円）	○ １５市町負担金	110,985,052 円
		○ 会員会費（正会員 20,000 円以上）	3,933,000 円
		○ 地域づくり推進助成	23,181,000 円
		○ 市町フレンドシップ推進事業	9,201,000 円
		○ 静岡県補助金	10,842,736 円
		○ ＪＫＡ補助金	1,526,250 円
		○ 事業者負担金	451,500 円
		○ 事業収入	5,972,888 円
		○ 寄付金	599,720 円
		○ 雑収入	331,123 円
2025（Ｒ７）年度	166,213,000（円）	○ １５市町負担金	112,676,000 円
		○ 会員会費（正会員 20,000 円以上）	4,037,000 円
		○ 地域づくり推進助成	17,500,000 円
		○ 市町フレンドシップ推進事業	10,333,000 円
		○ 静岡県補助金	12,000,000 円
		○ ＪＫＡ補助金	1,466,000 円
		○ 事業者負担金	2,850,000 円
		○ 事業収入	4,500,000 円
		○ 寄付金	650,000 円
		○ 雑収入	201,000 円
		○ 内部留保金	7,389,000 円
2026（Ｒ８）年度	166,213,000（円）	○ １５市町負担金	112,676,000 円
		○ 会員会費（正会員 20,000 円以上）	4,037,000 円
		○ 地域づくり推進助成	17,500,000 円
		○ 市町フレンドシップ推進事業	10,333,000 円
		○ 静岡県補助金	12,000,000 円

様式１

		○ ＪＫＡ補助金	1,466,000 円
		○ 事業者負担金	2,850,000 円
		○ 事業収入	4,500,000 円
		○ 寄付金	650,000 円
		○ 雑収入	201,000 円
		○ 内部留保金	7,389,000 円
2027（Ｒ９） 年度	166,213,000（円）	○ １５市町負担金	112,676,000 円
		○ 会員会費（正会員 20,000 円以上）	4,037,000 円
		○ 地域づくり推進助成	17,500,000 円
		○ 市町フレンドシップ推進事業	10,333,000 円
		○ 静岡県補助金	12,000,000 円
		○ ＪＫＡ補助金	1,466,000 円
		○ 事業者負担金	2,850,000 円
		○ 事業収入	4,500,000 円
		○ 寄付金	650,000 円
		○ 雑収入	201,000 円
		○ 内部留保金	7,389,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４） 年度	170,469,435（円）	【管理費】	58,576,654 円
		【事業費】	111,892,781 円
		○伊豆半島観光戦略推進（ＤＭＯ）事業	37,599,114 円
		○国内観光誘客事業	7,990,542 円
		○インバウンド（外国人観光客誘客）事業	10,494,059 円
		○伊豆半島情報発信強化事業	7,079,061 円
		○ジオパーク関連事業	48,730,005 円
2023（Ｒ５） 年度	175,988,287(円)	【管理費】	60,765,647 円
		【事業費】	115,222,640 円
		○伊豆半島観光戦略推進（ＤＭＯ）事業	32,443,912 円
		○国内観光誘客事業	7,542,842 円
		○インバウンド（外国人観光客誘客）事業	21,926,517 円
		○伊豆半島情報発信強化事業	7,511,135 円
		○ジオパーク関連事業	45,798,234 円
2024（Ｒ６） 年度	170,090,346(円)	【一般管理費】	63,299,336 円
		【事業費】	106,791,010 円
		○伊豆半島観光戦略推進（ＤＭＯ）事業	26,206,863 円
		○国内観光誘客事業	9,147,174 円
		○インバウンド（外国人観光客誘客）事業	16,532,655 円
		○伊豆半島情報発信強化事業	6,969,325 円
		○ジオパーク関連事業	47,934,993 円
2025（Ｒ７） 年度	173,602,000(円)	【一般管理費】	68,022,000 円
		【事業費】	105,580,000 円
		○伊豆半島観光戦略推進（ＤＭＯ）事業	24,310,000 円
		○国内観光誘客事業	12,760,000 円
		○インバウンド（外国人観光客誘客）事業	11,010,000 円
		○伊豆半島情報発信強化事業	7,000,000 円
		○ジオパーク関連事業	50,500,000 円

2026（Ｒ８） 年度	173,602,000(円)	【一般管理費】 68,022,000 円 【事業費】 105,580,000 円 〇伊豆半島観光戦略推進(ＤＭＯ)事業 24,310,000 円 〇国内観光誘客事業 12,760,000 円 〇インバウンド（外国人観光客誘客）事業 11,010,000 円 〇伊豆半島情報発信強化事業 7,000,000 円 〇ジオパーク関連事業 50,500,000 円
2027（Ｒ９） 年度	173,602,000(円)	【一般管理費】 68,022,000 円 【事業費】 105,580,000 円 〇伊豆半島観光戦略推進(ＤＭＯ)事業 24,310,000 円 〇国内観光誘客事業 12,760,000 円 〇インバウンド（外国人観光客誘客）事業 11,010,000 円 〇伊豆半島情報発信強化事業 7,000,000 円 〇ジオパーク関連事業 50,500,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

当面の間、伊豆半島 7 市 8 町の負担金、静岡県の補助金等を主な財源として総事業費 173,000 千円程度を維持する。また、2022 年 4 月に統合予定した伊豆半島ジオパーク推進協議会の業務を引き継ぎつつ、将来的な収益事業も視野に、伊豆半島ジオパークをテーマとした教育旅行プログラムを策定し、学習プログラムと現地研修による誘客の事業化を展開している。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

静岡県、伊豆半島７市６町（沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、賀茂郡東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町、函南町）は、（一社）美しい伊豆創造センターを当該県及び市町における地域連携ＤＭＯとして登録したい意向であったため、（一社）美しい伊豆創造センターとともに申請した。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

（他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

・エリアが重複する静岡ツーリズムビューロー（以下ＴＳＪ、対象：静岡全県）とはほぼ毎週、伊豆市産業振興協議会（対象：伊豆市）とは、月に１－２回程度連絡会を開催し、各取組について意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

（一社）美しい伊豆創造センターは伊豆半島の市町に共通する課題の解決を目的として構成した組織であるため、エリアが重複している。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

・ＴＳＪは全県対象であり、他地域との連携が必要なものはＴＳＪが調整し、伊豆半島については当ＤＭＯが担当する役割分担とし、齟齬や重複の発生しないよう常に連絡を取り合っている。
・伊豆市内にて完結する事業については伊豆市産業振興会が担当、他市町との連携が必要とされる事業は当ＤＭＯが担当している。両者は同一建物に入居しているため、齟齬や重複の発生しないよう連絡を取り合えている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

前述の役割分担によって効率的、効果的な活動の遂行が期待できる。

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	加藤　博永
担当部署名（役職）	総務企画部長
郵便番号	410-2416
所在地	静岡県伊豆市修善寺 838-1
電話番号（直通）	0558-72-0280
ＦＡＸ番号	0558-72-1355
Ｅ－ｍａｉｌ	ida@beautiful-izu.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	静岡県
担当者氏名	花田　淳
担当部署名（役職）	スポーツ・文化観光部 観光政策課長
郵便番号	420-8601
所在地	静岡県静岡市葵区追手町 9-6
電話番号（直通）	054-221-3617
ＦＡＸ番号	054-221-3627
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou2@pref.shizuoka.lg.jp

都道府県･市町村名	静岡県
担当者氏名	秋定　正法
担当部署名（役職）	スポーツ・文化観光部 観光振興課長
郵便番号	420-8601
所在地	静岡県静岡市葵区追手町 9-6
電話番号（直通）	054-221-3637
ＦＡＸ番号	054-221-3627
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou3@pref.shizuoka.lg.jp

様式１

都道府県･市町村名	静岡県
担当者氏名	飯田　雅之
担当部署名（役職）	総務部 賀茂地域局 次長兼地域課長
郵便番号	415-0037
所在地	静岡県下田市敷根 765-15
電話番号（直通）	0558-24-2201
ＦＡＸ番号	0558-24-2208
Ｅ－ｍａｉｌ	kamo-chiiki@pref.shizuoka.lg.jp

都道府県･市町村名	静岡県
担当者氏名	大畑　英樹
担当部署名（役職）	総務部 東部地域局 次長兼　地域課長
郵便番号	410-0055
所在地	静岡県沼津市高島本町 1-3 東部総合庁舎 2 階
電話番号（直通）	055-920-2002
ＦＡＸ番号	055-920-2009
Ｅ－ｍａｉｌ	tobu-chiiki@pref.shizuoka.lg.jp

都道府県･市町村名	沼津市
担当者氏名	鈴木　雄一郎
担当部署名（役職）	産業振興部 観光戦略課長
郵便番号	410-8601
所在地	静岡県沼津市御幸町 16-1
電話番号（直通）	055-934-4747
ＦＡＸ番号	055-933-1412
Ｅ－ｍａｉｌ	kanko@city.numazu.lg.jp

都道府県･市町村名	熱海市
担当者氏名	中島　浩太郎
担当部署名（役職）	観光建設部 観光経済課長
郵便番号	413-8550
所在地	静岡県熱海市中央町 1-1
電話番号（直通）	0557-86-6195
ＦＡＸ番号	0557-86-6199
Ｅ－ｍａｉｌ	kanko@city.atami.shizuoka.jp

様式１

都道府県･市町村名	三島市
担当者氏名	岡村　秀一
担当部署名（役職）	産業振興部 商工観光まちづくり課長
郵便番号	411-8666
所在地	静岡県三島市北田町 4-47
電話番号（直通）	055-983-2656
ＦＡＸ番号	055-983-2754
Ｅ－ｍａｉｌ	syoukou@city.mishima.shizuoka.jp

都道府県･市町村名	伊東市
担当者氏名	佐藤　文彦
担当部署名（役職）	観光経済部 観光課長
郵便番号	414-8555
所在地	静岡県伊東市大原 2 丁目 1-1
電話番号（直通）	0557-32-1711
ＦＡＸ番号	0557-38-2867
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou3@pref.shizuoka.lg.jp

都道府県･市町村名	下田市
担当者氏名	田中　秀志
担当部署名（役職）	観光交流課長
郵便番号	415-8501
所在地	静岡県下田市東本郷 1 丁目 5-18
電話番号（直通）	0558-22-3913
ＦＡＸ番号	0558-22-3910
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@city.shimoda.lg.jp

都道府県･市町村名	伊豆市
担当者氏名	杉本　弓弦
担当部署名（役職）	産業部 観光商工課長
郵便番号	410-2413
所在地	静岡県伊豆市小立野 24-1
電話番号（直通）	0558-72-9911
ＦＡＸ番号	0558-72-9909
Ｅ－ｍａｉｌ	kanko@city.izu.shizuoka.jp

様式１

都道府県･市町村名	伊豆の国市
担当者氏名	土屋　勝彦
担当部署名（役職）	観光文化部 観光文化課長
郵便番号	410-2292
所在地	静岡県伊豆の国市長岡 340－1
電話番号（直通）	055-948-1480
ＦＡＸ番号	055-948-2926
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@city.izunokuni.shizuoka.jp

都道府県･市町村名	東伊豆町
担当者氏名	梅原　巧
担当部署名（役職）	観光産業課長
郵便番号	413-0411
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町稲取 3354
電話番号（直通）	0557-95-6301
ＦＡＸ番号	0557-95-0122
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.higashiizu.lg.jp

都道府県･市町村名	河津町
担当者氏名	稲葉　吉一
担当部署名（役職）	産業振興課長
郵便番号	413-0595
所在地	静岡県賀茂郡河津町田中 212 - 2
電話番号（直通）	0558-34-1946
ＦＡＸ番号	0558-34-1404
Ｅ－ｍａｉｌ	sangyou@town.kawazu.shizuoka.jp

都道府県･市町村名	南伊豆町
担当者氏名	高橋　健一
担当部署名（役職）	商工観光課長
郵便番号	415-0392
所在地	静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂 315-1
電話番号（直通）	0558-62-6300
ＦＡＸ番号	0558-63-0018
Ｅ－ｍａｉｌ	shoukou@town.minamiizu.shizuoka.jp

様式１

都道府県･市町村名	松崎町
担当者氏名	大場　千徳
担当部署名（役職）	企画観光課長
郵便番号	410-3696
所在地	静岡県賀茂郡松崎町宮内 301-1
電話番号（直通）	0558-42-3964
ＦＡＸ番号	0558-42-3183
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.matsuzaki.lg.jp

都道府県･市町村名	西伊豆町
担当者氏名	木野のぶ子
担当部署名（役職）	産業振興課長
郵便番号	410-3514
所在地	静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 401-1
電話番号（直通）	0558-52-1114
ＦＡＸ番号	0558-52-1202
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.nishiizu.lg.jp

都道府県･市町村名	函南町
担当者氏名	藤原　敏
担当部署名（役職）	建設経済部 産業振興課長
郵便番号	419-0192
所在地	静岡県田方郡函南町平井 717-13
電話番号（直通）	055-979-8114
ＦＡＸ番号	055-978-3027
Ｅ－ｍａｉｌ	sangyo@town.kannami.shizuoka.jp

（登録）【地域連携DMO】 一般社団法人　美しい伊豆創造センター

様式２

記入日：　令和8年1月6日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
静岡県沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町
【設立日】 平成29年2月13日 【登録日】平成30年7月31日
【設立経緯】
各市町に観光協会はあるが、地域連携での観光推進のためDMO新設
【代表者】菊地　豊(伊豆市長)
【組織責任者（専門人材）（CEO）】 植松　和男
【マーケティング責任者（CMO）】 林田　充
【財務責任者（CFO）】 槇原　宏
【職員数】　常勤21人（正職員5人・行政出向13人・民間出向3人）
【主な収入】（令和6年度決算）
会費収入111百万円、助成金等収入34百万円、事業収入4.2百万円
【総支出】（令和6年度決算）
事業費107百万円、一般管理費63百万円
【連携する主な事業者】
各市町観光協会・商工会議所・商工会・旅館組合、地域交通事業者、静岡県観光協会および県内各DMO、海外OTA、海外観光協会　等

KPI(実績・目標)

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年	2023（R5）年	2024（R6）年	2025（R7）年	2026（R8）年	2027（R9）年
旅行消費額（百万円）	目標	215,131（ ）	249,339（ ）	284,356（ ）	320,211（ ）	336,786（ ）	336,786（ ）
	実績	264,342（ ）	306,060（ ）	312,007（ ）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	8,295（ ）	9,505（ ）	10,715（ ）	11,925（ ）	10,000（ ）	10,000（ ）
	実績	9,614（ ）	10,218（ ）	10,471（）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	98.0（ ）	98.0（ ）	98.0（ ）	98.0（ ）	98.5（ ）	98.5（ ）
	実績	99.3（ ）	99.1（ ）	99.2（ ）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	67.0（ ）	67.0（ ）	67.0（ ）	67.0（ ）	73.5（ ）	73.5（ ）
	実績	73.2（ ）	77.0（ ）	77.1（ ）	—	—	—

戦略

【観光地域づくりのコンセプト】
★ブランドスローガン「ジオの恵み　住む人来る人に」
★観光キーワードは「ジオリゾート伊豆」
★リピーター拡大と一人あたり消費単価拡大を最優先
★台湾インバウンドの基本概念は「相互交流拡大」
【主なターゲット】 ４人程度の小規模グループ拡大に注力
①台湾(特に準富裕層)　②首都圏（特にF1層開拓）　③関西圏新規開拓
④欧米（SIT、特にサイクルツーリズム）　⑤県内および近隣県
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
★伊豆半島ジオパーク連携観光/教育プログラム拡充①-⑤
★繁体中国語・台湾語による情報発信強化、台湾旅行会社との連携拡大①
★国内外エージェントセールス①-⑤、海外サイクルプロモーション強化①④

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
★ジオガイド協会、地域交通事業者と連携し、公共交通機関利用によるジオツーリズムプログラムを企画開発、販売プロモーション開始

【情報発信・プロモーション】
★ 国内F1層獲得に向けたSNSプロモーション拡大強化
★冬期関西圏対象「富士山と河津桜」プロモーション推進
★ビンテージサイクルイベント「Eroica Japan」誘客拡大に向けた東京サイクルモード・台北サイクルショー等プロモーション実施
【その他】
★台湾本社の最大手OTAと包括協定締結、R6は14.1万人誘客
★R5に財団法人台湾観光協会と連携協定締結